

統 計

乗用車における特殊鋼鋼材別原単位の変化

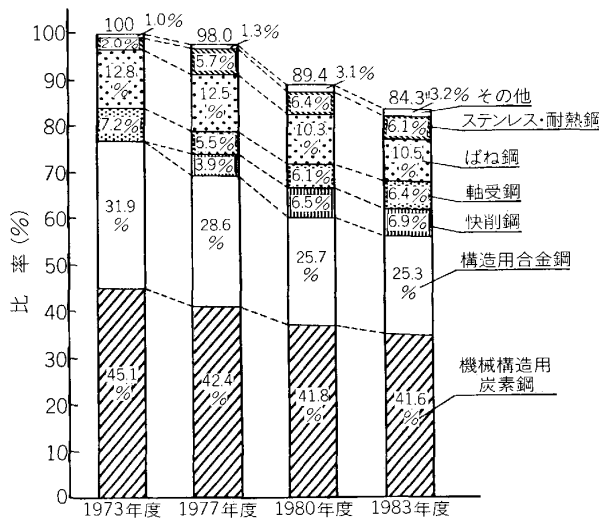
自動車工業会の調査による小型・普通乗用車の原単位に占める特殊鋼鋼材の10年間の鋼種別推移を示す。

本図によると、車全体の特殊鋼の占有率が10年間で約16%減少した。この主な理由は、次のとおり。

- 1) 鋼材の品質向上と合理的設計による部品の軽量化
- 2) 新工法の開発による材料歩留りの向上

図中、ステンレス・耐熱鋼の増加は、排気ガス対策による。その他快削鋼の増加、ばね鋼の減少が認められる。

自動車の分野でも材料変換が確かに進行している。鋼材、特に特殊鋼の使用比率が減少し、アルミニウム、プラスチックの比率が増大している。普通鋼全体では大きな変化はないが、普通鋼間では代替が進んでいる。軽量化、高耐食化のニーズにこたえるべく、冷



(出典：特殊鋼，32 (1983) 11, p. 11)

延鋼板の高張力化、表面処理化が急速に進んでいる。ステンレス鋼、耐熱鋼の増加は排気ガス対策を反映したものである。

(三菱製鋼(株)技術開発センター 望月俊男)
(日本鋼管(株)京浜製鉄所 荒木健治)

小型・普通乗用車の原材料構成比推移 (単位:重量%)

	48年	52年	55年	58年
鉄	3.2	3.2	2.8	2.2
普通鋼鋼材	6.9	7.1	6.9	7.6
特殊鋼鋼材	7.6	7.7	6.8	6.4
鉄板	38.9	37.9	33.8	29.4
延鋼板	—	0.5	1.4	4.1
中厚鋼	—	3.8	5.7	5.5
薄厚鋼	—	0.6	1.4	2.3
力つき鋼	2.3	2.2	2.3	2.3
表面処理鋼	4.7	1.8	2.2	1.9
の他	60.4	61.6	60.5	59.5
計	7.9	6.8	6.1	6.0
特殊鋼鋼材	5.6	4.6	3.8	3.6
炭素鋼	—	0.7	1.0	1.0
軸受鋼	1.2	0.9	0.9	0.9
ステンレス鋼	2.2	2.0	1.5	1.5
耐熱鋼	0.4	0.9	0.9	0.9
の他	0.2	0.2	0.5	0.4
計	17.5	16.1	14.7	14.3
鉄鋼	81.1	80.9	78.0	76.0
非鉄金属	1.0	0.9	0.8	0.9
鉛	0.6	0.6	0.8	0.6
鉛	0.5	0.5	0.3	0.4
鉛	2.8	2.6	3.3	3.5
鉛	0.1	0.1	0.4	0.2
計	5.0	4.7	5.6	5.6
非鉄金属	2.1	1.6	1.8	1.7
塗料	4.8	4.3	3.7	3.5
石膏	0.1	0.1	0.1	0.1
ガム	2.3	2.7	3.1	3.2
ポリ塩化ビニル	0.1	0.1	0.1	0.2
ポリ塩化ビニル	0.5	0.5	0.8	0.9
ポリ塩化ビニル	0.9	1.1	1.4	1.7
ポリ塩化ビニル	0.2	0.2	0.4	0.4
ポリ塩化ビニル	0.5	0.5	0.9	1.2
ポリ塩化ビニル	0.4	0.7	0.5	0.5
ポリ塩化ビニル	0.3	0.4	0.6	0.8
ポリ塩化ビニル	(2.9)	(3.5)	(4.7)	(5.7)
の他	—	0.7	1.2	1.3
の他	1.2	1.5	1.8	2.9
計	13.9	14.4	16.4	18.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

日刊自動車新聞 S. 58. 9. 26 より
(自工会, 材料部品委員会の資料を再編したのもの)

編集後記

例年より1, 2週間遅れている桜前線もようやく関東地方あたりまで北上し、4月15日の日曜日は絶好のお花見日和となった。お花見もこの頃は桜の名所は何処もナイターが盛んで、昼間よりむしろ人出が多いらしい。結婚式があつて名古屋に行つたついでに、名城公園に出かけたら、日没と共に酒やご馳走を下げた花見客がうんかのごとくぞくぞくと集まつてくること。

暗闇の中にぼんぼりの明りに浮き出した夜桜は確かに美しい。この美しさに引かれて人は集まることは今も昔も同じだが、照明が落ちるまでカラオケでドンチャン騒ぎして、ろくろく後片付けもせずに戻つてしま

う公德の欠如は今の花見の特徴らしい。

第107回講演大会も千葉工業大学のお世話で盛況のうちに終わった。講演数もここ2, 3年コンスタントに700件を越え、10年前の倍以上と誠に目覚ましい生長ぶりだ。鉄鋼が21世紀に生き残るために死に物狂いになつて研究開発を進めている結果と思いたい。ただ、中にはオリンピックよろしく参加するため、あるいは他社との対抗上、あるいは宣伝のために出したとしか思えないような程度の報告も少なくないように思うのだが。何やら、この頃のお花見と共通しているようで少し気になります。(Y.S.)